

授 業 科 目 名	幼児と言葉	教 員 名	山下 愛実	免許・資格 との 関 係	小学校教諭	
					幼稚園教諭	必修
					保育士	
授 業 形 態	講義	担当形態	単独		こども音楽療育士	
科 目 番 号	FOI107	配当年次	1年前期	卒 業 要 件	小幼コース	
単 位 数	1 単位				幼保コース	
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目（幼稚園）					
施 行 規 則 に 定める科目区分 又 は 事 項 等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）					
一 般 目 標	(1) 人間にとっての言葉の意義や機能、言葉の発達過程を理解する。 (2) 領域「言葉」のねらい及び内容を理解し、言葉に対する感覚や言葉での表現を豊かにする保育のあり方について理解する。 (3) 児童文化財の子どもの育ちにとっての意義や機能、保育での活かし方を理解する。					
到 達 目 標	(1) 言葉の意義や機能、言葉の発達過程の理解 ① 人間と言葉の関係に焦点をあて、言葉の機能を踏まえた上で、言葉を育むことの意義を説明できる。 ② 乳幼児の言葉の発達過程を説明できる。 (2) 領域「言葉」のねらい及び内容と言葉に対する感覚を豊かにする実践のあり方 ① 領域「言葉」のねらい及び内容を理解している。 ② 言葉の発達を踏まえ、子どもの言葉を豊かに育む保育者の援助のあり方を考察できる。 (3) 児童文化財の意義、機能、活かし方の理解 ① 児童文化財（絵本・紙芝居・人形劇等）について体験的に学ぶことを通して、種類や意義・機能について理解を深めている。 ② 言葉を育み、想像する楽しさを広げる児童文化財の保育での活かし方を理解している。					
授 業 の 概 要	意味と思ひからなる生きた言葉は、表現すること・考えること・想像することといった生活や生きることと深く結びついており、生きる力になる。乳幼児期における言葉の発達過程を知り、言葉の意義や機能を考える。また、領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、言葉の楽しさや美しさ等の言葉に対する感覚を豊かにする実践のあり方を考察する。さらに、絵本や紙芝居、人形劇等の児童文化財について体験的に学ぶことを通して、種類や意義、機能について理解を深めるとともに、幼児教育・保育現場における活かし方を演習しながら学び深める。 アクティブラーニングとして、振り返り、グループディスカッション、グループレポート、個人レポートなどを取り入れる。					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「6.教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授 業 計 画	第1回：講義概要の説明（本講義の主旨および講義計画について） 幼児教育・保育の特質を理解し、幼稚園教育要領における5領域について学ぶ。（目標(2)-①） 第2回：教育・保育要領にみる「言葉」の「ねらい」や「内容」について 「ねらい」①自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。②人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。③日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、先生や友達と心を通わせる）と「内容」および「内容の取り扱い」について理解する。（目標(2)-①） 第3回：乳幼児期における言葉の発達 乳幼児期の言葉について映像記録を通して発達過程の理解を深めるとともに、話し言葉や書き言葉などの言葉の意義と機能を考察する。（目標(1)-①、②） 第4回：言葉を豊かにする遊びと環境① 遊びの中で生じる多様な感情体験と言葉に注目し、子どもの言葉を豊かに育む保育者の援助の					

	あり方を考える。(目標(2)-(2)) 第5回：言葉を豊かにする遊びと環境② 遊びの中で生じる言葉(話し言葉、書き言葉)を介した子ども同士の関わりに注目し、言葉を育むための保育者の援助のあり方を考える(ごっこ遊び、話し言葉、書き言葉(文字))。(目標(2)-(2)) 第6回：言葉を育む児童文化財① 児童文化財(絵本・紙芝居・人形劇等)について体験的に学ぶことを通して、種類や意義、機能を学ぶ。(目標(3)-①, ②) 第7回：言葉を育む児童文化財② 子どもの育ちの観点から児童文化財の可能性について考え、児童文化財の保育での活かし方を学ぶ。(目標(3)-①, ②) 第8回：これまでの授業内容の振り返り・まとめ 期末試験
学 生 に 対 す る 評 価	講義と討論への積極参加(提出物・グループワーク等) 20%・発表20%・期末試験60% なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。 ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。 ・答案例を配布する。
時 間 外 の 学 習 に つ い て	(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。) ・学習した内容についてプリントで再確認しておく。また、これまで配布したプリントを再読し、理解を深め、不明点は質問する。 ・講義を受けて、レポート課題があるときには必ず次回の授業で提出すること。 ・講義で使った資料やノートファイル管理を徹底すること。 ・講義で使用したテキスト箇所を必ず復習しておくこと。
テ キ ス ト	宮里暁美(編)・無藤隆(監修)(2018)『事例で学ぶ保育内容 <領域>言葉』萌文書林
参 考 書 ・ 参 考 資 料 等	厚生労働省(2018)『保育所保育指針解説』フレーベル館 文部科学省(2018)『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省(2018)『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』フレーベル館 なお適宜資料を配付する。
担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ	積極的に授業に参加する中で、子どもの育ちの豊かさや子どもの育ちを支える保育の面白さに触れ、子どもへの関心や保育の理解が深まることを期待します。
オフィスアワー	授業の前後の時間(メール等でアポイントを取る)